



『よい年はつくるもの』

3学期の始め、一年の始めの挨拶です。今日は「あけましておめでとうございます」の挨拶をしましょう。

「あけましておめでとうございます。（「あけましておめでとうございます。」の返事）」

「ことしもよろしくおねがいします。」（「今年もよろしくお願いします。」と元気に挨拶）

さて、今日は皆さんを迎えていると、1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も6年生も、そして今日は中学生も、笑顔で『おめでとうございます。』『今年もよろしくお願いします。』と、口々に挨拶してくれました。

中には、「今年は5年生になります。がんばります。」「2年生になってもよろしくおねがいします。」と、うれしそうに言ってくれたり、中学生の男の子が「先生、今年もう卒業です。ちょっとドキドキしています。」と言ってくれたりして、みんな新しい一年をしっかりと頑張ろうと思っているんだなあと思いました。

今朝、皆さんの教室を回ってみると、どの教室も皆さん迎える準備がしてあって、黒板にもいろいろ3学期を迎える言葉も書いてありました。その言葉の中で、「よい1年にしましょう。」という言葉がありました。「よい1年になるといいですね。」ではないのです。『しましょう。』なのです。そう、良い1年にするのもしないのも皆さん次第。

そこで、今日は『良い年は創るもの』という話をします。

私の教え子で、この半年くらいの間、海外に出張して仕事をしている男の子（いやもう子ではありません立派な大人ですが）がいます。

このお兄さんから10月ごろに便りがあり、「今海外で仕事をしています。がんばっていますが、この後3年くらい海外での仕事をそのまま引き受けてくれないかといわれて、落ち込んでいます。日本での仕事の方がいいので今の仕事をやめてしまおうかとも思っています。」という内容でした。

そのお兄さんがお正月に会いに来てくれたので、会社はやめたのかと聞くと、こんなことを言っていました。

「いやだいやだといっているもやらなければいけないことはある。どうせどんな仕事をしていても、大変なのは変わらない。

だから逃げるのはやめてがんばってみることにしてみました。いやだと言っていたことを逆に良い方に変えていくようにがんばります。良い年にするのは自分ですから。」

そうです。よい年は「自分の力でつくる」のです。待っていてもよい年が向こうからやってくるわけではありません。自分でよいことを呼ぶのです。自分でよい年にするのです。

皆さんは今年、どの人もみんな次の学年に進みます。1年生は2年生に、2年生は3年生に、3年生は4年生に、4年生は5年生に、5年生は6年生、そして6年生はあと3カ月ちょっとすると、もうここにはいません。中学生です。そのための始まるの月、準備の今日です。だから、進んで、逃げずに良い年を創る、そのための準備を今日から、あつという間の3学期の間にしなければなりません。

先ほどのお兄さんのように、自分のやらなければいけないことから逃げてしまわずに、今年を自分の力で「よい1年」を創ってください。

もう一度、「今年もよろしくお願いします。」

（「よろしくおねがいしまあす。」の挨拶で終わりました。）